

令和7年度 子ども・子育て支援等推進調査研究事業

保育士等の意識及び業務負担軽減に関する調査研究（概要）

令和8年3月

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

世界が進むチカラになる。



I. 調査概要

【調査実施目的】

- 保育士の有効求人倍率は全職種平均と比べても高い水準となっており、配置基準の改善や「こども誰でも通園制度」の制度化に伴い、保育士確保は喫緊の課題となっている。
- しかし、保育士を目指し養成施設を修了しても保育所等に就職する者の割合は84.2%であり、保育士になったのちに離職し、再就職しない者も一定数いる。このような状況下において、保育所等の現場で就業する保育士を増加させるため、保育士資格を持っている者の意識を把握し、対策につなげる必要がある。
- そこで、本調査研究では、**保育士確保に対する課題を明らかにし、保育士の業務改善・負担軽減に向けて、働きやすい環境の整備、離職防止、ひいては潜在保育士の復職促進に資する実効性のある施策につなげることを目的として、現役保育士・潜在保育士等を対象に意識・実態調査を行う。**

【事業実施内容】

①現役保育士等アンケート調査：

- 認可保育所、地域型保育事業所、認定こども園（幼保連携型、保育所型）に勤務する施設管理者及び保育士等を対象とし、**22,623件（うち、施設票5,721件、保育士票16,902件）の回答**を得た。

②潜在保育士アンケート調査

- 保育離職者及び保育未就業者を対象とし、**2,008件の回答**を得た。

③潜在保育士グループインタビュー調査

- 潜在保育士アンケートの回答者の中から**4グループ（子育て層、保育士経験3年未満、保育士離職後のブランクが長期、働き方や職場環境を理由に離職）を設定し、計17名を対象に実施した。**

④保育施設等ヒアリング調査

- 認可保育所、地域型保育事業所、認定こども園（幼保連携型、保育所型）に勤務する施設長及び保育士等を対象とし、**8か所に対してヒアリングを実施した。**

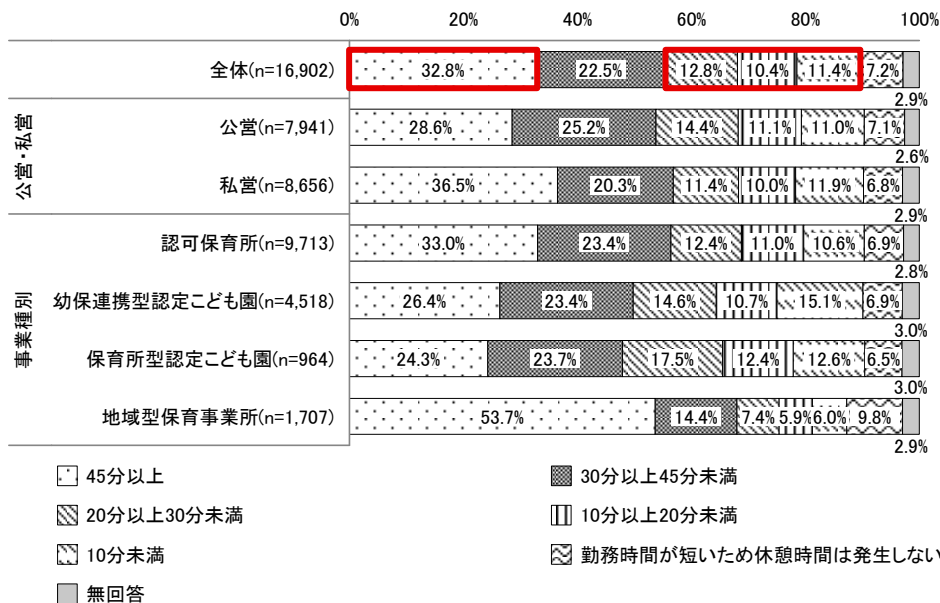
II. 調査結果のポイント①

1. 保育士の業務負担状況及び就業継続意向

<勤務時間、休憩、休暇の取得状況>

- 現役保育士等アンケート調査（保育士票）より、1日当たりの休憩時間をみると、「45分以上」（32.8%）の割合がもっとも高いものの、**30分未満を合わせると34.7%を占めており、日中の休憩が十分確保できていない様子が伺える。**（図表1）
- また、潜在保育士グループインタビュー調査では、残業や持ち帰り仕事の多さ、休暇の取得しづらさなどが挙げられ、そのことが大きなストレスとなっていたことが伺えた。

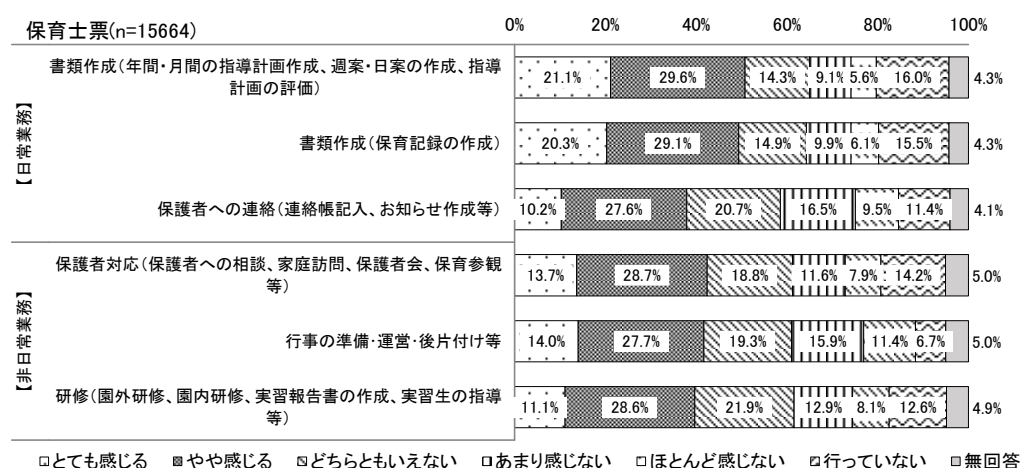
図表1 【保育士票】1日当たりの休憩時間：単数回答（問31）



<業務負担感、保育の現場で対応が難しいこと>

- 現役保育士等アンケート調査（保育士票）において、保育の現場で負担感が大きい業務の割合（「とても感じる」「やや感じる」の合計）をみると、**日常業務では「書類作成（年間・月間の指導計画作成、週案・日案の作成、指導計画の評価）」(50.8%)、「書類作成（保育記録の作成）」(49.4%)、「保護者への連絡」(37.9%)、非日常業務では「保護者対応」(42.4%)、「行事の準備・運営・後片付け等」(41.7%)、「研修」(39.7%)などで、負担感が大きいと感じられている。**（図表2）

図表2 【保育士票】業務の負担感：単数回答（問36）



注) 集計対象は、現役保育士等アンケート調査の保育士票。

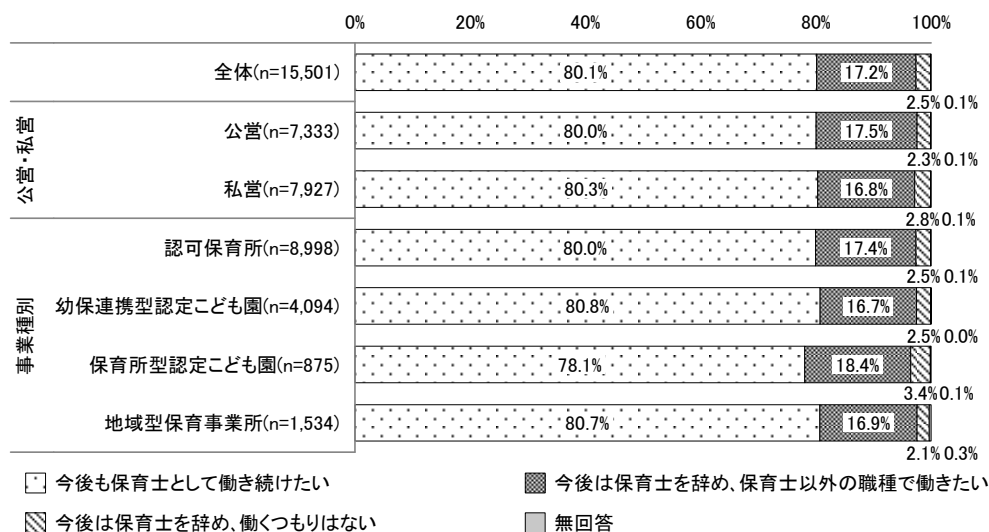
注) 日常業務、非日常業務それぞれ、業務の負担感を「とても感じる」「やや感じる」を合わせた割合が高いもの上位3項目ずつを抜粋して表示。

II. 調査結果のポイント②

<就業継続意向>

- 現役保育士等アンケート（保育士票）より、今後の就業継続意向をみると、全体では、「**今後も保育士として働きたい**」が**80.1%**、「**今後は保育士を辞め、保育士以外の職種で働きたい**」が**17.2%**となっている。（図表3）
- 保育士を辞めたい人において、現在保育士として勤務している保育所等を退職したい理由は、「給与がよくないため」（25.2%）、「業務量が多く大変なため」（25.2%）、「保育士1人当たりの負担が大きいため」（22.1%）が上位であり、**業務負担の大きさと、その負担に見合わない処遇水準が大きな要因となっていた。**

図表3 【保育士票】就業継続意向：単数回答（問59）



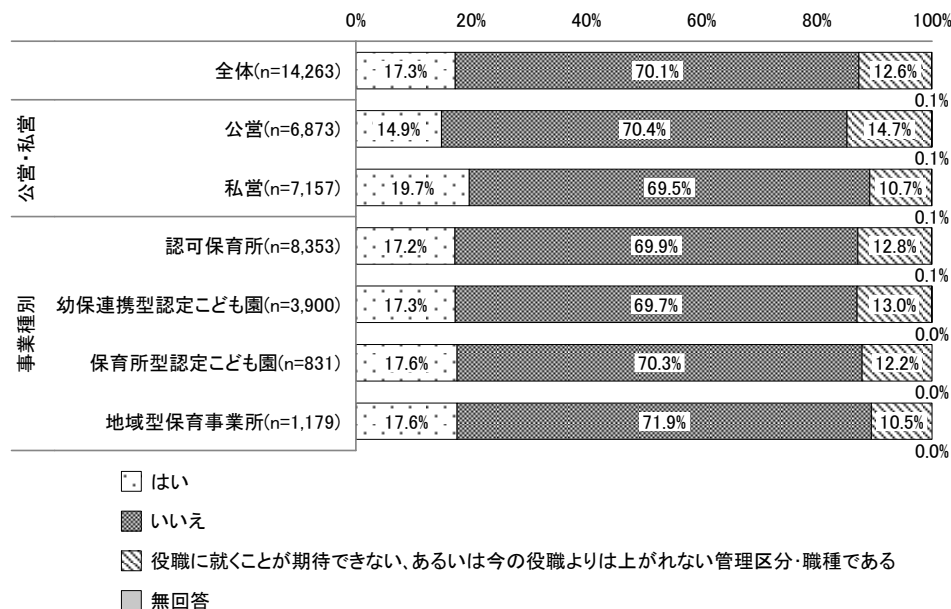
今後も保育士として働きたい
 今後は保育士を辞め、保育士以外の職種で働きたい
 今後は保育士を辞め、働くつもりはない
 無回答

注）集計対象は現役保育士等アンケート調査の保育士票。

<キャリア意向>

- 現役保育士等アンケート（保育士票）より、**現在の職場で役職（上位の役職）に就きたいか**をみると、「はい」が**17.3%**、「いいえ」が**70.1%**となっている。（図表4）
- 上位の役職に就きたいと回答した保育士等について、その理由をみると、「自身の知識や経験で、職場に貢献したいと思ったため」（42.9%）がもっとも割合が高く、次いで「より高い収入が得られるため」（39.1%）となっている。

図表4 【保育士票】現在の職場で役職に就きたいか：単数回答（問57）



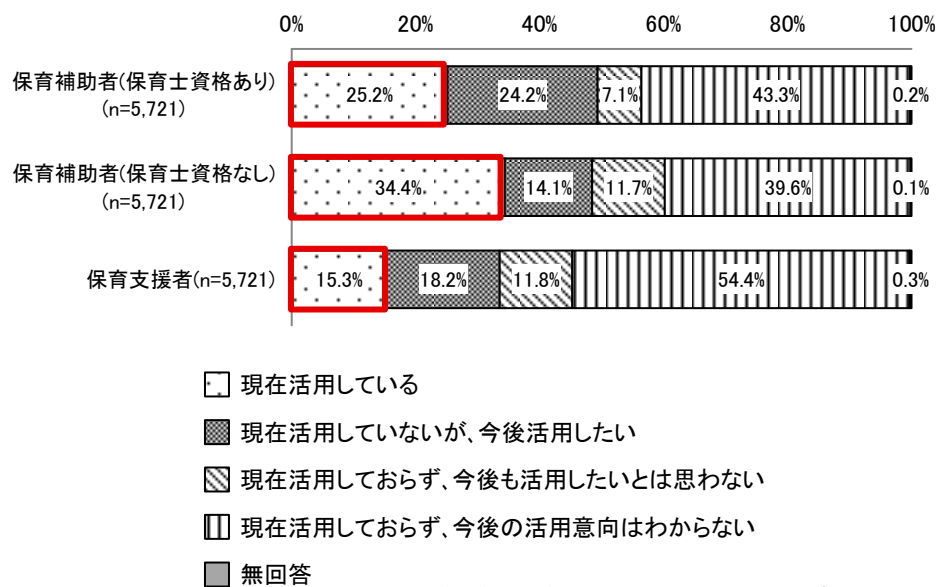
はい
 いいえ
 役職に就くことが期待できない、あるいは今の役職よりは上がれない管理区分・職種である
 無回答

II. 調査結果のポイント③

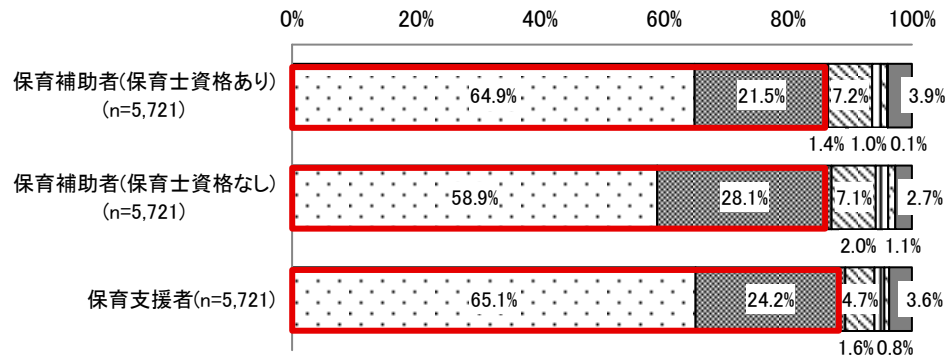
2. 保育補助者・保育支援者の活用状況及び業務負担軽減効果

- 現役保育士等アンケート調査（施設票）より、保育補助者等の活用状況をみると、「**保育補助者（保育士資格あり）**」を活用している施設は**25.2%**、「**保育補助者（保育士資格なし）**」は同**34.4%**、「**保育支援者**」は同**15.3%**となっている。（図表5）また、保育補助者等の業務内容は、**こどもの着替え、散歩・園外活動時の見守り等、こどもに関わる業務のほか、周辺業務（教材や遊具の準備・片付け・清掃・消毒・洗濯等）、給食の配膳・後片付け**などが多く挙げられている。
- 現役保育士等アンケート調査（施設票）より、保育補助者等の活用によって**業務負担軽減の効果があつたと回答した割合（「そう思う」「ややそう思う」の合計）をみると、「保育補助者（保育士資格あり）」が86.5%、「保育補助者（保育士資格なし）」が87.0%、「保育支援者」が89.3%**と、いずれも9割近くにのぼっている。（図表6）施設ヒアリング調査では、保育補助者等の活用によって保育士の業務量が減少し、保育士が休憩や休暇を取得できるようになったほか、保育士のこどもと関わる時間が増えるなどの効果がみられた。

図表5 【施設票】保育補助者等の活用意向：単数回答（問45-1～問45-3）



図表6 【施設票】保育補助者等の活用による業務負担軽減への効果：単数回答（問46-1～問46-3）



注) 集計対象は現役保育士等アンケート調査の施設票。

II. 調査結果のポイント④

3. 保育ICTの活用及び業務負担軽減効果

- 現役保育士等アンケート調査（施設票）より、保育ICTの導入率をみると、**保育ICT補助金の対象となる4機能のいずれかを導入している施設が84.6%、4機能全てを導入している施設が13.4%**となっている。（図表7）
- 現役保育士等アンケート調査（施設票、保育士票）より、保育ICTの活用による業務負担感の変化をみると、単に保育ICTを導入しているかではなく、実際にICT導入が進んでいると感じられるかどうか、施設全体や保育士の業務負担感に違いをもたらすことが伺える。また、施設票において、**保育ICTの活用による業務負担軽減効果を感じている割合は66.9%と、全体の約3分の2**となっている。（図表8）

図表7 【施設票】4機能の導入・活用状況
（問40-1、問40-2より作成）

（上段：実数、下段：%）

	4機能の全て		4機能のいずれか	
	導入	活用	導入	活用
全体	765	502	4,842	4,631
	13.4	8.8	84.6	80.9
公営	149	96	1,470	1,412
	8.5	5.5	83.5	80.2
私営	615	406	3,341	3,189
	15.7	10.4	85.2	81.3
認可保育所	390	254	2,552	2,446
	13.0	8.5	85.3	81.8
幼保連携型認定こども園	170	115	1,200	1,147
	13.1	8.8	92.3	88.2
保育所型認定こども園	52	36	297	284
	16.0	11.1	91.4	87.4
地域型保育事業所	153	97	793	754
	13.8	8.8	71.8	68.2

図表8 【施設票】4機能の導入状況別 業務負担軽減への効果
（問40-1・問40-2×問43より作成）

（上段：実数、下段：%）

	合計	問43 ICT等の活用による業務負担軽減への効果						
		軽減された	やや軽減された	どちらともいえない	あまり軽減されなかった	軽減されなかった	わからない	無回答
全体	5,116	1,016	2,404	980	240	93	141	242
	100.0	19.9	47.0	19.2	4.7	1.8	2.8	4.7
4機能の全てを導入	765	242	353	108	16	8	9	29
	100.0	31.6	46.1	14.1	2.1	1.0	1.2	3.8
上記以外	4,351	774	2,051	872	224	85	132	213
	100.0	17.8	47.1	20.0	5.1	2.0	3.0	4.9
4機能の全てを活用	502	174	226	65	11	4	6	16
	100.0	34.7	45.0	12.9	2.2	0.8	1.2	3.2
上記以外	4,598	842	2,172	912	228	88	132	224
	100.0	18.3	47.2	19.8	5.0	1.9	2.9	4.9
4機能のいずれかを導入	4,842	994	2,343	914	207	80	85	219
	100.0	20.5	48.4	18.9	4.3	1.7	1.8	4.5
上記以外	274	22	61	66	33	13	56	23
	100.0	8.0	22.3	24.1	12.0	4.7	20.4	8.4
4機能のいずれかを活用	4,631	966	2,266	863	195	72	68	201
	100.0	20.9	48.9	18.6	4.2	1.6	1.5	4.3
上記以外	469	50	132	114	44	20	70	39
	100.0	10.7	28.1	24.3	9.4	4.3	14.9	8.3

注）集計対象は現役保育士等アンケート調査の施設票。

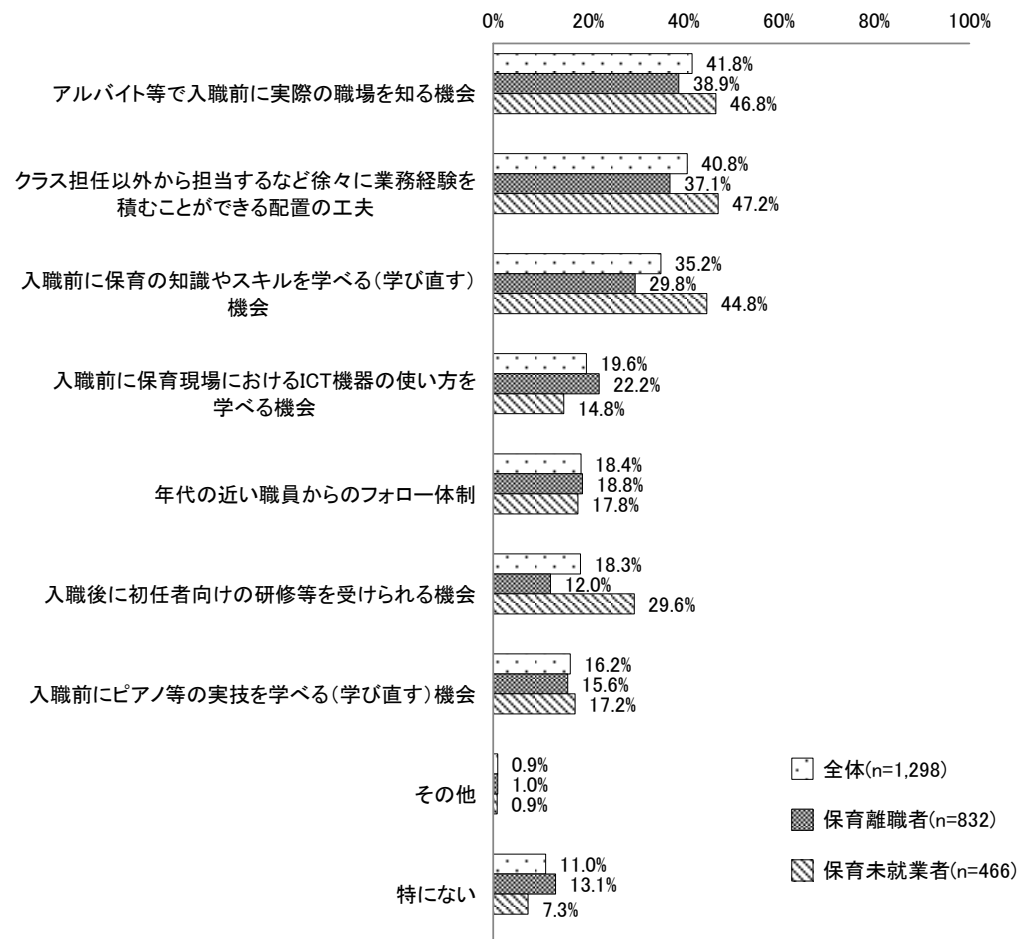
注）4機能とは、「園児の登園及び降園の管理に関する機能」「保育に係る計画・記録に関する機能（ドキュメンテーションを除く）」「保護者との連絡に関する機能（ICTを介さない個別メールを除く）」「キャッシュレス決済に関する機能（保護者が直接銀行に申込み口座振替を除く）」を指す。

II. 調査結果のポイント⑤

4. 潜在保育士の復職に向けて求められる取組について

- 潜在保育士アンケート調査より、潜在保育士が保育士を離職した理由をみると、「**職場内の人間関係・ハラスメント**」(19.8%)、「**結婚のため**」(18.7%)、「**健康上の理由(体力含む)のため**」(16.4%)が上位に挙げられている。
- 今後も保育士として働く意向がない人は、その理由として「現在の仕事を続けたいため」(35.6%)のほか、「**給与がよくないため**」(24.8%)、「**自分には適性がないと感じるため**」(22.0%)が上位であり、**保育士の処遇が他の業種や職種と比べて低いこと、保育士資格はあっても保育の仕事への適性がないと考えていることが**、保育の仕事を選ばない理由として多くなっている。
- 今後保育士として働く意向がある方について、保育士として就職するにあたり入職前後にあるとよい支援としては、「**アルバイト等で入職前に実際の職場を知る機会**」(41.8%)、「**クラス担任以外から担当するなど徐々に業務経験を積むことができる配置の工夫**」(40.8%)が上位に挙げられている。(図表9)
- 潜在保育士グループインタビュー調査でも、アルバイト等で入職前に実際の職場を知る機会として、施設内の人間関係や職場の雰囲気などは実際に経験してみないとわからないため、**ボランティアや低い給与でもよいので、入職前に数日間～1週間程度、職場を体験できるとよいとの声**が複数あった。また、現場を知る機会に関連して、**保育所等を退職した人の口コミを閲覧できるウェブサイトがあれば、施設選びの参考にとけるとの意見**もあった。

図表9 【潜在保育士】今後、保育士として就職するにあたり、入職前後にあるとよい支援：複数回答（問34）



注) 集計対象は、潜在保育士アンケート調査。